

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-325194

(43)Date of publication of application : 22.11.2001

(51)Int.Cl.

G06F 13/00

H04L 12/54

H04L 12/58

(21)Application number : 2000-180561

(71)Applicant : GOTO HISAO

(22)Date of filing : 12.05.2000

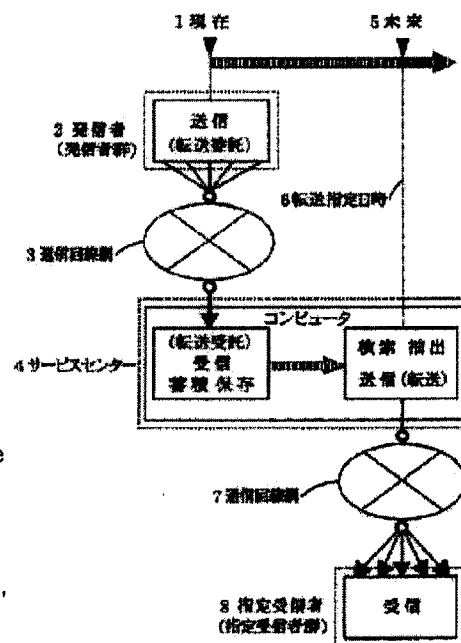
(72)Inventor : GOTO HISAO

(54) FUTURE MAIL NETWORK SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a future mail network system where a time difference transfer trust service center is prepared for the information on electronic mails, etc., to accumulate and preserve the electronic mail information which are sent from each of individual transfer trust transmitters and to automatically transfer the electronic mail information to a designated receiver on a future designated transfer date after the electronic mail information is retrieved and extracted unlike a conventional system where the event information are separately stored/preserved or stored by means of a recording medium, etc., and also desired to be transmitted to, to be confirmed by or to be taught to a user himself/herself or a third party on a future specified date for an organization of private persons, establishments, etc.

SOLUTION: The information on the electronic mails, etc., are transmitted from a transmitter to a service center after the receiver and the future transfer date and time are designated and then received, accumulated and preserved by a computer of the service center. These electronic mail information are retrieved, extracted and transferred automatically to a designated receiver on a future designated transfer date. This future mail network system is controlled by connecting the computer of the service center to the electronic information equipment such as personal computers of both transmitter and receiver via the Internet.



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2001-325194
(P2001-325194A)

(43)公開日 平成13年11月22日(2001.11.22)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード*(参考)
G 0 6 F 13/00	6 1 0	G 0 6 F 13/00	6 1 0 F 5 K 0 3 0
H 0 4 L 12/54		H 0 4 L 11/20	1 0 1 C
12/58			

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 4 頁)

(21)出願番号 特願2000-180561(P2000-180561)

(22)出願日 平成12年 5月12日(2000. 5. 12)

(71)出願人 593128633

後藤 久男

宮城県名取市高館吉田字真坂19の 8

(72)発明者 後藤 久男

宮城県名取市高館吉田字真坂19- 8

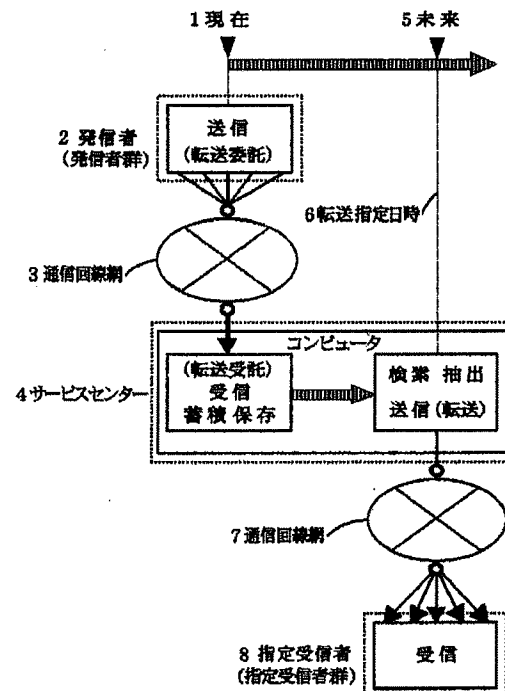
Fターム(参考) 5K030 GA16 HA07 HC01 KA07 LD11
LD18

(54)【発明の名称】 未来メールネットシステム

(57)【要約】

【課題】個人や事業所等の組織体において、未来の特定日時に自らや第三者に伝えたい・伝えられたい、確認したい・確認させたい、教えたい・教えられたい等々の事象情報を、従来は個々がバラバラに記録媒体等を利用して収納・保管したり、記憶に頼っていたものを、電子メール等情報の時間差転送受託サービスセンターを設けて、個々の転送委託発信者から送信された電子メール等の情報を蓄積・保存し、未来の転送指定日時が到来した時に指定された受信者宛てに検索・抽出して自動転送する未来メールネットシステムを提供するものである。

【解決手段】発信者が電子メール等の情報を、受信者と未来の転送年月日・時刻を指定してサービスセンターに送信することにより、サービスセンターのコンピュータで受信・蓄積・保存し、未来の指定転送日時が到来した時に該電子メール等の情報を検索・抽出して、指定受信者宛てに自動転送する。本システムのコントロールは、本発明を司るサービスセンターのコンピュータと発信者と発信者のパソコン等の電子情報機器をインターネットで接続して行う。



【特許請求の範囲】

【請求項1】発信者が電子メール等の情報を、未来の指定年月日、時刻に指定受信者宛てに転送することを委託して送信したものを、受信・蓄積・保存し、転送指定日時が到来した時に検索・抽出して、指定受信者宛てに転送する機能を有するコンピュータを備えたサービスセンターを設けて、電子メール等情報の時間差転送の受託をすることを特徴とする未来メールネットシステム。

【請求項2】請求項1におけるコンピュータと個々の発信者、受信者のコンピュータ等の電子情報機器とを無線又は有線通信回線とインターネットに接続したことを特徴とする未来メールネットシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術の分野】本発明は、電子メール等情報の発信者である自己自身、家族、友人、知人等の個人や事業所、教育機関、官公関係等の組織体と、受信者である自己自身、家族、友人、知人等の個人や事業所、教育機関、官公関係等の組織体と、電子メール等情報を受信、蓄積、保存、検索、抽出、転送する機能を有するコンピュータを備えた時間差転送受託サービスセンター間において、サービスセンターが発信者からの未来の転送指定年月日・時刻に指定受信者に送信することを委託した該電子メール等の情報を受信して蓄積、保存し、指定転送日時が到来した時に指定受信者宛に検索、抽出した該電子メール等の情報を自動転送する未来メールネットシステムいわゆる電子メール等時間差転送受託ネットシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、未来のある時期に、自らや第三者に伝えたい・伝えられたい、確認したい・確認させたい、教えたい・教えられたい等々の事象は、時間が経るにつれ内容を忘れてしまったり不確かになったり、その事象自体を忘れがちである。その為に映像・画像・文字・音声・音楽等で構成した情報をメモリー・ディスク・磁気テープ・磁気カード・フィルム・写真・印刷冊子・自筆の冊子・メモ等の記録媒体として収納・保管したり、記憶に頼ったりしている。その時期が到来した時に収納・保管している中から探し出して用いたり、記憶を辿って思い出している。

【0003】情報を記録媒体として収納・保管した場合は、紛失・破損・変質したり、忘れてしまう等で再び用いられなかったり、再び用いることができなかったりする。

【0004】特に個人の場合は、情報を収録・収集することに重きが置かれ、集積された情報の整理がなされない例が多く、再び用いるときに探し出すことが容易でない。

【0005】個人の記憶に頼る場合は、忘れたり不確かとなったり、個人が死亡したりして目的を達せられない

ことがある。

【0006】例の一として、児童の小学校等における体育大会等の行事の時、親として子供の成長の記念として撮影機器等で撮影した映像・画像等の記録媒体を、将来見せてあげたいと思い保存して置くが、いつの間にかどこに保管していたのか判らなくなったり、見つかったも破損や変質していたりして目的を達せられないで残念な思いをすることがある。

【0007】例の二として、親が子に対して是非知らせたり教えておくことがあっても、理解できる年頃まで待つ必要がある等将来の適当な時期まで待たなければならない場合等は、親の記憶に頼る例が多く、伝えることを忘れてしまったり内容を忘れてしまったり、親が亡くなって伝えられなかったりしている。

【0008】例の三として事業所等の組織体において、ビジョンや公約等が掲げられ種々の記録媒体に納められ保管されていることが多いが、いつの間にか忘れられてその場限りやその場しのぎになりがちで検証されることが少ない。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記従来の技術に記述したように種々の問題点を解決することを課題として成されたものであり、個人や事業所等の組織体において、未来の特定日時に、自らや第三者に伝えたい・伝えられたい、確認したい・確認させたい、教えたい・教えられたい等々の事象情報を、従来は個々がバラバラに記録媒体等を利用して収納・保管したり、記憶に頼っていたものを、電子メール等情報の時間差転送受託サービスセンターを設けて、個々の転送委託発信者から電子メール等の情報として送信された情報を受信・蓄積・保存し、未来の転送指定日時が到来した時に指定された受信者宛てに検索・抽出して自動転送する未来メールネットシステムを提供する。

【0010】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、本発明の未来メールネットシステムは、発信者が電子メール等の情報を、受信者と未来の転送年月日・時刻を指定してサービスセンターに送信することにより、サービスセンターのコンピュータで受信・蓄積・保存し、未来の指定転送日時が到来した時に該電子メール等の情報を検索・抽出して、指定受信者宛てに自動転送する。

【0011】上記のコントロールは、本発明を司るサービスセンターのコンピュータと受信者と発信者のパソコン等の電子情報機器をインターネットで接続して行い、複数の受、発信者に設置された該パソコン等の電子情報機器とインターネットで結ばれる。

【0012】

【発明の実施の形態】本発明の骨子である基本形態について図1に基づき説明すると、現在(1)において、発信者(2)は指定受信者(8)と転送指定日時(6)を

定めた電子メール等の情報をコンピュータ等の電子情報機器を使用して通信回線網(3)を利用しサービスセンター(4)のコンピュータに送信する。

【0013】サービスセンター(4)は発信者(2)からの該電子メール等の情報をコンピュータで受信し、未来(5)の転送指定日時(6)が到来するまで蓄積、保存する。

【0014】転送指定日時(6)が到来した時に該電子メール等の情報をコンピュータが検索、抽出して指定受信者(8)に自動転送する。

【0015】指定受信者(8)は、転送された該電子メール等の情報を通信回線網(7)を利用しコンピュータ等の電子情報機器を使用して受信する。

【0016】発信者(2)は、転送指定日時(6)以前であれば指定受信者(8)、電子メール等の情報内容、転送指定日時(6)の変更、修正、取り消しができる。又、発信者(2)の初期送信の内容を全く変更できないようにもできる。

【0017】指定受信者(8)を発信者(2)とする自己宛て転送ができることは勿論である。

【0018】未来の転送指定日時(6)設定も数日から数年、数十年先でも任意におこなうことができる。

【0019】

【実施例】本発明を適用した場合の一実施例のフローを図2に示す。

【0020】発信者が1通は指定受信者1名、1通は指定受信者2名に対し、異なる未来(C)の転送指定日時(E3)(E4)をそれぞれ個別に定めて送信する場合、現在(A)において、発信者(I)は、2通の電子メール等の情報に未来(C)の転送指定日時(E3)

(E4)をそれぞれ個別に定め、指定受信者を(4)並びに(5)(6)と定めてサービスセンター(D)のコンピュータにパソコン等の電子情報機器を使用して、通信回線網(B)を利用し送信する。

【0021】サービスセンター(D)は、発信者(I)から送信された2通の電子メール等の情報を受信し、それぞれの転送指定日時(E3)(E4)が到来するまで保存する。

【0022】転送指定日時(E3)(E4)がそれぞれ到来したとき、サービスセンター(D)のコンピュータは、保存している2通の電子メール等の情報を該転送指定日時にそれぞれ検索、抽出して、指定受信者(4)並びに(5)(6)宛てに通信回線網(F)を利用して自動転送する。

【0023】指定受信者(4)並びに(5)(6)各々は、それぞれパソコン等の電子情報機器を使用して発信者(I)からの電子メール等の情報を受信する。

【0024】発信者が1通の電子メール等の情報を2名の指定受信者に送信する場合は、現在(A)において、発信者(O)は、電子メール等の情報に未来(C)の転

送指定日時(E2)と指定受信者を(2)(3)と定めてサービスセンター(D)のコンピュータにパソコン等の電子情報機器を使用して、通信回線網(B)を利用し送信する。

【0025】サービスセンター(D)は、発信者(O)から送信された1通の該電子メール等の情報を受信し、送信指定日時(E2)が到来するまで保存する。

【0026】送信指定日時(E2)が到来したとき、サービスセンター(D)のコンピュータは、保存している該電子メール等の情報を検索、抽出して、指定受信者(2)(3)宛てに通信回線網(F)を利用してそれぞれ自動転送する。

【0027】指定受信者(2)(3)は、それぞれパソコン等の電子情報機器を使用して発信者(O)からの該電子メール等の情報を受信する。

【0028】発信者が1通の電子メール等の情報を1名の指定受信者に送信する場合は、現在(A)において、発信者(H)は、電子メール等の情報に未来(C)の転送指定日時(E1)と指定受信者を(1)を定めてサービスセンター(D)のコンピュータにパソコン等の電子情報機器を使用して、通信回線網(B)を利用し送信する。

【0029】サービスセンター(D)は、発信者(H)から送信された1通の該電子メール等の情報を受信し、転送指定日時(E1)が到来するまで保存する。

【0030】転送指定日時(E1)が到来したとき、サービスセンター(D)のコンピュータは、保存している該電子メール等の情報を検索、抽出して、指定受信者(1)宛てに通信回線網(F)を利用して自動転送する。

【0031】指定受信者(1)は、パソコン等の電子情報機器を使用して発信者(H)からの該電子メール等の情報を受信する。

【0032】本システムにより、発信者は、指定受信者に発信者の所在場所の知・不知、存在・不存在、生存・否生存に関わらず、未来の転送指定日時に電子メール等の情報を転送することができ、電子認証システムが確立すれば遺言等にも利用することができる。

【0033】本システムは、個人にとどまらず各種事業所等の組織体においても相互に幅広く利用することができる。

【0034】本発明の構成要件を備え、且つ効果を有する範囲内で適宜用途を変更して実施できる。

【0035】

【発明の効果】未来の特定した時期に、自らや第三者に伝えたい・伝えられたい、知りたい・知らせたい、確認したい・確認させたい、反省したい・反省させたい、検証したい・検証させたい、評価したい・評価させたい或いは教えたい、教えられたい等々の事象を満たすことができる。その他の効果は次の通りである。

- ①現在を確かなものにする気持ちが高まる。
 ②現在を大切にすること気持ちが高まる。
 ③将来を展望すること気持ちが高まる。
 ④未来の特定日、特定受信者に確実に電子メール等の情報を送信することができる。

【図面の簡単な説明】

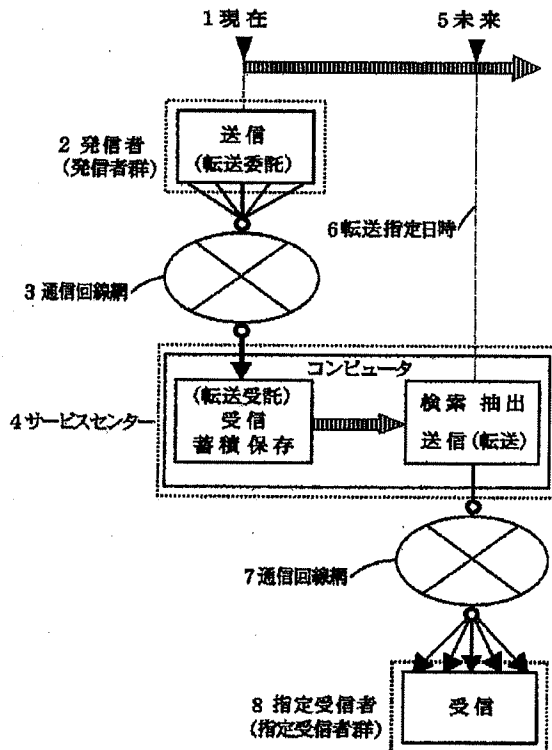
【図1】本発明の基礎概念のフローチャート。

【図2】本発明の一実施例のフローチャート。

【符号の説明】

1. 現在
 2. 発信者（発信者群）
 3. 通信回線網
 4. サービスセンター
 5. 未来
 6. 転送指定日時
 7. 通信回線網
 8. 指定受信者（指定受信者群）

【図1】



【図2】

